

第4回ナーシングキャリアカフェ 沖縄

報告書

名桜大学3年生ナーシング・キャリア・カフェグループ：金城志織(リーダー)・荒添桃子・
稲福南海・大城輝咲・田仲あゆみ・玉城光梨・玉城衣理・浜尾千春・望月いづみ・守屋七海

参加大学：琉球大学、沖縄県立大学、名桜大学

日時：2013年6月22日(土) 14:00~17:00

場所：ムーンテラス東崎2階(沖縄サテライト)

プログラム・参加者

時間	内容
14:00~14:15	受付
14:20~15:05	講演 テーマ：「看護職による国際協力活動の実際とその後の進路」 目的：最新の国際協力の報告や留学経験を訊くことにより、国内、 国外における看護職の社会的な役割と拡大と可能性について理解を 深める。 特別講演者：梶藍子氏 (NGO メータオ・クリニック支援の会 日本事務所スタッフ、看 護師)
15:15~16:00	ナーシングキャリアカフェ テーマ：キャリアデザインについて ・梶氏の講演に関することや、疑問・相談など
16:15~17:00	先輩を含めて3大学在学生同士の交流 ・進路について ・どのような経路で選択したのか ・その他の疑問・質問
17:00~17:10	アンケート

1. 目的・概要

ナーシングキャリアフェとは、福岡ブロックと沖縄ブロックの中心地に、学生と卒業生や
プロフェッショナルが交流することで、多くの文化や人々の価値を尊重できるような看護師
をめざし、共同教育を展開していこうとするものである。

今回は、国際保健協力活動を行っている梶氏のお話を聞くこと、学生同士の交流も行いな
がら自分の将来についてじっくり考えることを目的に開催する。

2. 内容

国際保健活動講話「看護職による国際協力活動の実際とその後の進路」(14:20~15:05)

梶藍子氏(看護師)に学生時代の話や国際活動の経験についての講話をしていただいた。

中学生のころに、ハゲワシと少女の写真を見て国際協力に携わりたいと思い始めた。自分ができる国際協力として、看護師という職業を選択し、看護学校へ進学した。卒業後は、国際協力に力を入れている病院の臨床で働き、その中で国際協力に興味のある医療職者が集まった **Bridge** というサークルへ参加した。ラオスでスタディツアーに参加し、メータオ・クリニックで働き、日本とメータオ・クリニックの懸け橋になりたいと思い、2008年3月にNGO支援の会を発足した。2009年8月、長崎大学熱帯医学研究所へ進学した。2011年3月、東日本大震災時には、AMDA 緊急医療援助隊として現地に赴いた。このような様々な経験を通して公衆衛生の必要性を感じ、アメリカの大学病院で公衆衛生を学び博士課程を取得申請中である。梶氏の講話から国内・国外における看護職の社会的な役割の拡大と可能性について理解を深めることができた。

3. ナーシングキャリアカフェ(15:15~)

(1) 質疑応答

参加者が講演に興味を持ち聞いていたので質問も多く、活発な質疑応答となった。

Q.忙しい中でも何かやっていくためには

→講演会に行ったり、書籍、映画など好きなことをすることでモチベーションを保つ。

また、同じような志をもった人とのネットワーク(国際保健医療学会、学生部会)

目標をもって毎日を過ごす。

Q.学生時代から人生設計していた?

→ネットワークがあまり普及していなかったこともあり、設計している訳ではなかったが、書籍を読むことで、目標が明確になってくる。

キャリアを考えるときには「自分の原点」をしっかり持つことが大切である。

Q.国際協力に携わる人の家庭について

→国際協力を目指す女性の90%が独身である。

理解力のある旦那さんを見つける。

Q.サークルはいろいろな所がやっているの?

→国際協力に力を入れている所ではやっている。(中部徳洲会が活動し始めた)

Q.アンテナってどんなふうにはっているの?

→情報源を得るためにメーリングリストに加入しておく(国際協力マガジン等)

Q.好きなことをやっても大変だと感じる時がある。そんなときは？

→落ち込んだり嫌なことがあったとき、原点に戻ってみる。また、気分転換を行うことや自分を型にはめこみすぎないこと。

Q.海外と日本での医療のちがひ、魅力とは？

→看護にはあまり違いはないが、医療にアクセスできないなど医療の前段階が違う。

また、日本で助けられる命が助けられない事がある（命に優先度がつけられてしまう）
魅力としては、人と人とのつながりが強く、心が豊かであり、笑顔が絶えない。

(2) 講演や質疑応答などを行っての感想や考えたこと

- ・梶氏の雰囲気柔らかく、質問をしやすかった。
- ・大学の枠をこえて和やかな雰囲気で進めることができた。
- ・看護観が変わった。
- ・看護の中でも道の幅が広がった。
- ・プレゼンテーション力を学ぶことができた。
- ・視野が広がり、将来を身近に感じる事ができた。
- ・他の人の質問も刺激になった。

(3) 今回は、名桜大学4年次の先輩と名桜大学卒業生に来ていただき、交流を行った。

【在学生・卒業生内訳】

名桜大学4年次	中田純司	県外：看護師希望
	奥平夏希	県外：看護師希望
	仲村彬那	県内：看護師希望
	廣野愛美	保健師希望
	濱崎今日子	養護教諭希望
名桜大学卒業生	伊敷美沙樹	琉大病院

(4) 先輩を含めた在学生同士の交流

同じ学校だからこそ現在の4年生の活動を伺ったり、実際に社会に出て活躍をしている先輩方との交流を通してキャリアデザインについて実感が湧き、学校生活や将来への見通しがたてられるということを目的に行った。

最初の5分間、ランダムに振り分けた3グループの中でそれぞれ自己紹介を行い、親睦を深めた。会場内では県内、県外、保健師、養護教諭、講師の方に分けてブースを設け、学生が興味のあるブースに自由に行き来し、交流を行える形式にした。その際、遠慮して話せない、ということを守るため先生方には席を外していただいた。小さなブースに分けたことで発言しやすく、明るい雰囲気であった。また、先輩と在学生という縦の関係だけでなく、

他大学の学生との横の関係も築くことができた。

4. ナーシングキャリアカフェの企画や運営を行っての振り返りや感想

係りごとに振り返りや反省を行い、以下のような感想が挙げられた。

○お菓子係：お菓子を分けて配置したが、小分け皿が少なかった。買い出しは領収書を保管して後で請求の形にしたらどうか。

○掲示係：各学年への連絡方法を検討する必要がある(学年連絡網の確認など)。

○受付係：案内があまりできなかった(誘導・名札・名簿記入など)。

○司会：質疑応答などが活発になっているときは、マイクが必要であった。

梶氏に感想をいただいていた。

先輩の把握ができていなかった。

ゲストの紹介のための資料作りが遅かった。

全体での振り返りや反省を行い、以下のような感想が挙げられた。

○その他：先輩の配置を決めていなかった。

教員の方々に退出して頂くことに不安はあったが、話しやすい雰囲気であり好評であった。

学生主体の方が他大学の人も和やかであったように感じた。

他大学の学生が来てくれるか不安であったが、他大学の参加者がいてよかった。

交流の時間が有意義であった。

スムーズに進めることができた。

全員での事前の打ち合わせが必要であった。

交流の際、先輩方も入れた自己紹介を行った方がよかった。

資料は受付など見やすい場所に置くべきだった。

現場での指揮や総括などの連絡体制を整える必要がある。

5. 今後に向けての考え

ナーシングキャリアカフェの企画や運営を行い、振り返りをする中で、様々な反省点や良い点が明らかになった。その中で、事前の打ち合わせ不足と現場での指揮や総括などの連絡体制の不備、資料の配置が特に課題として挙げられた。

今後は、課題を改善しながら、学生主体で他大学とさらに交流を深めていくことができるように善処したい。

6. まとめ

今回の講演とナーシングキャリアカフェを通し、国内、国外における看護職の役割の拡大と可能性について理解できた。また、先輩方との交流を通して今後のキャリアデザインについて考えるいい機会となった。